

カービュー マーケットウォッチ (2013年8月)

株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：兵頭 裕）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

**3カ月連続の前年割れも乗用車全体の下げ幅はひとけた台に
軽乗用車と海外メーカー製輸入車は前年超えと好調**

13年 7月順位	13年 6月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(2)	↑	アクア	トヨタ	28,657
2	(1)	↓	プリウス	トヨタ	23,067
3	(4)	↑	ノート	日産	11,712
4	(3)	↓	フィット	ホンダ	11,553
5	(5)	→	ヴィッツ	トヨタ	9,181
6	(7)	↑	セレナ	日産	9,005
7	(8)	↑	カローラ	トヨタ	7,331
8	(6)	↓	クラウン	トヨタ	6,724
9	(10)	↑	ステップワゴン	ホンダ	6,715
10	(11)	↑	インプレッサ	スバル	5,714
11	(12)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	5,184
12	(17)	↑	スペイド	トヨタ	4,450
13	(18)	↑	デミオ	マツダ	4,346
14	(13)	↓	ヴォクシー	トヨタ	4,341
15	(16)	↑	パッソ	トヨタ	4,147
16	(15)	↓	スイフト	スズキ	3,978
17	(19)	↑	エスティマ	トヨタ	3,649
18	(14)	↓	CX-5	マツダ	3,411
19	(21)	↑	ノア	トヨタ	3,366
20	(20)	→	フォレスター	スバル	3,144

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■3 カ月連続の前年割れも乗用車全体の下げ幅はひとケタ台に

軽乗用車と海外メーカー製輸入車は前年超えと好調

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した7月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は40万1937台、前年同月比は90.3%（貨物車、バスを含む新車総販売台数は47万2111台、前年同月比92.0%）と、3カ月連続のマイナスとなった。

ただ、軽乗用車が15万2038台、前年同月比1.6%増とプラスに転じたことで、乗用車全体の下げ幅は前月の2ケタ減からひとケタ台の9.7%に縮小。8月6日に発売された期待の「トヨタ カローラハイブリッド」を皮切りに、今年後半は売れ筋モデルが続々とモデルチェンジするだけに、早い時期に回復傾向になるかもしれない。

輸入車を除く日本メーカー製乗用車（タイ生産の日産マーチ、日産ラティオ、三菱ミラージュ含む）は38万1838台で、前年同月比89.3%（軽乗用車を除く3/5ナンバー乗用車のみでは22万9800台、同82.7%）。日本メーカーブランド合計では17カ月連続プラスと絶好調のスパルに加え、三菱が2カ月連続増、さらに日産とスズキが前年超えとなった。スパル以外は軽乗用車の売れ行きが好転したことが要因で、特に三菱は「eK ワゴン」のモデルチェンジで軽乗用車が66.8%増となり、乗用車全体でも31.8%増と大きく伸びた。

軽乗用車を含む月間ランキングは、「トヨタ アクア」が2万8657台、前年同月比9.1%増で4カ月ぶりにトップ。以下、2位「トヨタ プリウス（α含む）」2万3067台、同30.9%減、3位「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」2万672台、同46.8%増、4位「ホンダ N BOX（+含む）」1万9736台、同9.6%減、5位「スズキ ワゴンR」1万5951台、同8.8%減、6位「日産 デイズ」1万3944台（13年4月発売）、7位「ダイハツ ミラ（ココア、イース含む）」1万2557台、同38.7%減、8位「スズキ スペーシア（カスタム含む）」1万2522台（旧パレットとの前年同月比116.1%増）、9位「日産 ノート」1万1712台、同398.8%増、10位「ホンダ フィット（シャトル含む）」1万1553台、同52.2%減と続き、軽が6車、ハイブリッド車（HV）もしくはHVをラインナップするモデルが3車というトップ10になった。

軽自動車は貨物車を含む全体でも18万7794台、前年同月比1.7%増と好調で、7月としては過去最高を記録。近々「ダイハツ ミラ」のマイナーチェンジと「タント」のモデルチェンジが予定されており、この勢いが続きそうだ。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万9775台、前年同月比115.6%（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体は2万4346台、同104.0%）で、15カ月連続で前年を上回った。海外メーカー製ブランド別乗用車ランキングではVW（フォルクスワーゲン）が5015台、前年同月比11.0%増で7カ月連続トップ。2位メルセデス・ベンツ3489台／同31.9%増、3位BMW（ミニを除く）3199台／同22.2%増、4位アウディ1839台／同5.6%増、5位ボルボ1440台／同78.4%増となり、ボルボが2カ月連続の5位と好調をキープしている。

■ココも気になる！ その1

販売回復のカギを握る新車ラッシュに期待

昨年9月にエコカー補助金が終了し、減速傾向に陥った国内市場。ただ08年のリーマンショック対策として実施された新車購入補助金（09年4月～10年9月）終了時の反動減より軽微で、10年10月以降、3カ月連続で前年同月比が20%以上落ち込んだのに対し、昨年は一とけた台で推移。前年に対する下げ幅が10%台になったのも今年3月と6月の2回だけだ。

これは10年当時と比べ、ニューモデルが数多く投入され、売れ行き好調となったことが要因だろう。例えば、11年12月に発売された「トヨタ アクア」は12年に26万6587台と年間乗用車販売ランキング2位に大躍進。12年2月発売の「マツダ CX-5」は年間販売目標1万2000台だったのに対し、3万5438台と3倍弱の好セールスを記録。エコカー補助金が終了した9月以降でも、11月発売の「スバル フォレスタ」は発売後1カ月の受注が月間販売目標の4倍となる8000台、同月発売の「マツダ アテンザ」も7300台と目標の7倍強、さらに12月発売の「トヨタ クラウン」は約2万5000台もの受注を集め、今年6月発売の「スバル XV ハイブリッド」も発売2週間で月間販売目標の10倍以上となる5580台の受注となるなど、ヒットモデルが続出している。やはりニューモデル投入は格好の市場起爆剤になるということだ。

今年後半はトヨタが「カローラハイブリッド」以降、「クラウンマジェスタ」、「ハリアー」、「ノア／ヴォクシー」、日産は「スカイライン」、「ティアナ」、ホンダも「フィット」、「オデッセイ」、「ライフ」、さらに「マツダ アクセラ」や「ダイハツ タント」など、バラエティ豊かなモデルがフルチェンジする予定。すでにカローラハイブリッドなどは7月末時点の事前受注が6300台と目標の2.5倍に達するなど出足好調で、ホンダも9月発売予定のフィットの事前CMやWEBサイトを公開するなど意欲的だ。怒とうの新車ラッシュで国内市場が盛り上がることを期待したい。

■ココも気になる！ その2

好調アウディが今年目標を上方修正

すっかり VW、メルセデス・ベンツ、BMW に次ぐ人気輸入車ブランドとしての地位を確立したアウディ。昨年も2万4163台、前年比14.2%増と6年連続で前年を上回り、年間ランキング4位を堅持。アウディジャパンとしては日本における年間販売記録を更新中だ。今年は1～7月の累計で1万6195台、前年同期比18.1%増と2ケタ増を継続中で、トップ10圏内ブランドとしてはメルセデス、ボルボ、フィアットに次ぐ伸び率となっている。

そんなアウディが当初、2万6500台だった今年の販売計画を前年比20%増の2万8000台に上方修正。「A8」、「Q5 ハイブリッド」の投入などで上半期が好調だったことに加え、今秋にも売れ筋の「A3」を新型に切り替える予定で、今年上半期累計の車名別ランキングでは「A1 シリーズ」2815台／14位、「A4 シリーズ」2621台／16位、「A3 シリーズ」2211台／17位と、アウディ勢はトップ10入りを果たせなかっただけに、新型A3の拡販でさらなる上乗せを狙うというわけだ。

新型A3はすでにヨーロッパ市場には投入済で、昨年のジュネーブショーで初公開された3ドアをはじめ、3ドアのホイールベースを延長した5ドアのスポーツバック、300馬力のパワーを誇るS3、さらに初の4ドアセダンなどバリエーションも充実。日本には従来同様、スポーツバックが投入されるが、現行型と同レベルの価格になるというから楽しみだ。

アウディは世界市場でも堅調で、1～6月の上半期では78万467台、前年同期比6.4%増だった。日本への導入時期は未定だが、ニューモデルとしては新型A3ベースのセダンを今秋に、年末には新型A8、来年にはプラグインHVの新型A3スポーツバックeトロンといった先進モデルも用意しているという。

ブランドイメージを高め、日本でも確実に売れ行きを伸ばしてきたアウディが、VW、メルセデス、BMWの国内輸入ブランド3強にどこまで迫れるか、要注目だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 管理本部 IR広報室 (pr@carview.co.jp)

TEL : 03-5859-6190 FAX : 03-5859-6180
